

カーネーションの計画的生産に関する研究

(第3報)開花時期および切花品質におよぼす長日処理時期の影響

堀川法隆・佐藤義機

この実験は前報(1976)の結果より,香川県内で栽培されている主要品種から,長日処理の効果が期待される"レナー""粧"の2品種をもちいて,1次分枝と2次分枝の生育状況,開花時期および切花品質におよぼす長日処理時期の影響について検討した。

1. 1次分枝に対する長日処理時期の影響

1次分枝の生長は長日処理により促進された。また,低節位から発生した分枝に8月から9月にかけて生育が遅れる現象が認められた。

1次分枝の開花は,高節位からの分枝において早く,またよく揃った。生育初期の長日処理は,到花日数よりも開花期間の短縮に効果があった。しかし,生育中期の長日処理はむしろ開花を遅らせた。

切花時の莖長,生体重において,生育初期の長日処理は揃った切花を得た。

2. 2次分枝の発生と生長におよぼす長日処理時期の影響

生育初期に長日処理を施した場合,2次分枝の発生は最も多く,生育中期以降に長日処理すれば分枝の発生はむしろ抑制された。

2次分枝の初期生長は,品種によって異なった。

3. 2番花の開花におよぼす影響

2次分枝の開花期は,その初期生育が促進されるほど早くなる傾向があった。生育初期および栽培全期間の長日処理は,開花を遅らせた。また,開花率が低下し,切花の品質も低下した。

2次分枝の発生位置が2番花の切花本数に強く影響し,この傾向は品種本来の開花特性と考えられる。

生育初期または栽培全期間の長日条件は,1次分枝と2次分枝の開花期を分離し,一斉切り栽培に利用できると思われる。

謝辞・本論文をまとめるにあたり,香川大学農学部五井正憲助教授,長谷川嘸助手に幾多の御教示を得,また,御校閲を賜った。ここに記して感謝の意を表す。